

第 5 回山陽小野田市基本構想審議会	
開催日時	平成 2 9 年 7 月 3 1 日 (月) 午後 6 時 3 0 分～午後 9 時
開催場所	山陽小野田市役所本館 3 階 大会議室
出席委員	吉川委員、石川委員、篠原委員、長谷川委員、瀬口委員、平中委員、恒松委員、藤村委員、中原委員、加藤委員、田中剛男委員、伊場委員、江田委員、原孝造委員、山根委員、森田委員、玉田委員、中村委員、山本委員、内山委員、竹本委員、塩田委員、古谷委員
出席職員	総合政策部長、企画課長、企画課課長補佐、企画課主査、企画課主査兼企画係長、企画課行革推進係長、企画課主事
協議概要	<p>1 開会</p> <p>2 委嘱状交付</p> <p>3 議題</p> <p style="padding-left: 2em;">(1) 第 4 回会議における意見の整理について</p> <p>【会長】 資料 1、2、3 について何か御意見はあるか。</p> <p>【委員】 異議なし。</p> <p style="padding-left: 2em;">(2) まちづくりの基本理念及び将来都市像について</p> <p>【会長】 資料 4 について御意見を伺いたい。</p> <p>【委員】 前回の我々の意見を加味、考慮いただいて随分わかりやすくすっきりした文章となった。一つ基本理念のところ、</p>

文章で非常にわかりやすいが、つまるところ、最後の「住みよい暮らしの創造」というのが我々の一つの考え方だと思う。2の将来都市像は「住みよい暮らしの創造」を踏まえてだと思う。1の基本理念のところだが、「住みよい暮らしの創造」の文字を少し強調してみてもどうか。基本理念としてはこういう理由があって、最終的に「住みよい暮らしの創造」という形に導かれたということで、そこをちょっと強調したほうがいいかなと。

【事務局】

太くして文字を強調するなど検討する。

【委員】

将来像が「活力と笑顔あふれる」で、キャッチが「スマイルシティ」。無難でインパクトがない。ここでケチつけたらせつかくまとまりかけているのに申し訳ないが、周南市のキャッチが「しゅうにゃん」、下松市は「笑い・花・童謡のまち」などとなっている。だから本当は、今レノファとかもあるけれどない時にはどうにもならないんで、山口東京理科大さんの推しで、「学びのまち」など、子どもから年寄りまで学べるまちという感じの押し方が本当はいいと思う。

【会長】

基本理念のところは字を強調するという事。そして今、都市像の話が出たが、前回だったか、例えば「汗のかける山陽小野田市」というような、独特の、ここにしかないもの、方言を入れたらどうかという意見もあった。皆さんの総意的には前回の三つの案をうまくまとめる形ということになったと思う。今改めて、「しゅうにゃん」など

特殊なというか、特徴のあるものという意見が出たが皆さんの意見はどうか。

～意見なし～

意見はないようなので、総意というか、大多数の意見としては前回の三つをうまくまとめて、という経緯もあるので、ほかに意見がなければ「活力と笑顔あふれるまち」、「スマイルシティ」とさせていただく。

【委員】

基本的に将来像はこれでよいと思う。これに沿って、具体的には基本計画・実施計画でやっていくことになる。そのため、将来像はこれでいいと思う。

【会長】

基本理念と将来像はこのようにまとまったということで進めさせていただく。これによりお願いしたい。

(3) 基本目標について

【会長】

基本目標について御意見を伺いたい。

【委員】

基本構想は、具体的な名称などはできるだけまとまったと思う。ただ、それだとどこにでもある総合計画となってしまう。名前を変えたほうがいいのではないか。どこの基本計画なのか全然わからない。山陽小野田市には竜王山、江汐公園、厚狭のほうの公園などもあるし、基盤整備におい

ては厚狭駅前、小野田駅前、拠点としてサンパークなど、その位置づけが、ある程度固有名詞を出さないと、基本構想を踏まえ、基本計画、実施計画に移すにしろ、何らかの形で具体的にされたほうがよいのでは。

【会長】

例えば、今おっしゃっているのは都市基盤についてか。

【委員】

竜王山公園とか江汐公園とか物見山公園とか厚狭にはある。そういったものも活用しながら皆さんがそこで交流できるとか、そういうことを含めて検討したほうがいいと思うし、前回も言ったように、山口東京理科大が素晴らしいのはもちろんだが、それ以外にも小野田にはいろいろ特徴がある。レノファの練習場を誘致したり、サッカー、ガラス教室やその工房もあったりする。そういった特徴のあるものを書いたほうがよい。載せたからといって拘束されるものでもない。総合計画なのだから、ある程度出されたほうがよい。いかがだろうか。そうでないと、どことどこが拠点都市などということがわからない。山陽小野田市全体のイメージ図が湧いてこない。

【会長】

課題について問題点に取り組むということで、都市基盤のところには JR 駅周辺などは載っている。どこまで載せるかは、実際に計画に落とすときには当然具体的に載せていくことになると思う。繰り返しになるが、これは基本構想なので。

【委員】

今の意見について、総合計画は資料3、4、5という形で全部関連づけられている。資料3では課題の整理をされて具体的な名前が出てきている。それを踏まえて基本目標を作られている。課題は基本目標の中はかなり入れこまれていると思う。その後、当然将来の都市構想にも反映されるわけで、基本目標の中にあえてそれぞれの固有名詞を入れる必要があるとは思わない。当然この下に基本計画等が入ってくるので、今のところ基本目標はこういった文言でいいのではないかと思う。

【委員】

駅前は、約60年前から、都市区画整理法のもとに我々の財産が全部凍結されている。そのエリアに入った方は大変な損害を受けている。それを御存じでおっしゃっているのか。

【委員】

知っているつもりである。

【会長】

この件は以前から何回も話が出てきているが、すでにこれからいろいろなところに計画として落としこまれるようなことを聞き及んでいる。JR駅周辺の整備はなんといっても問題である。ただ、ここでは基本的な考え方として載せている。

【事務局】

基本目標については、この下に基本計画がある。さらに具体的なものは実施計画で入ってくる。そこではある程度名称も入れる。都市基盤については、都市構想のところまで固

有名詞も入る。ここでは、基本的にはこのままでさせていただきたい。

【会長】

その他の御意見、どうぞ。

【委員】

前の総合計画では基本目標が五つだが、今回は六つに増やされている。内容をみると、前回の1にあった健康と防災が、今回1と2に分かれた。

全体の基本構想として目標を分けたということは、それぞれに重点を置いたのかなと思うが、これまでの話し合いの中で、防災については、今までのことを継承していくというだけで、新しい動きが見当たらないので、ただ分けただけでは、とってしまおう。

また、課題の整理の中でサッカーを入れてもらっているが、レノファはプロサッカーなので、産業・観光のほう、集客を求める産業として見ないといけないと思う。

だから、サッカーが教育・スポーツで入るのは大変よいが、レノファの位置づけをもう少しはっきりしたほうがよい。サッカーを楽しむ町というのではなくて、「プロサッカーのレノファがあるまち」という印象付けをこの10年でできるかどうかというのが、山口東京理科大学の学科の創設とあいまって目玉になっていくのではないかと思う。

そこで一つ考えているのが、山陽オートレース場。このオートレースの部分の去年のカルテをみるとあまりいいことが書いてない。借金が多く、思うように集客ができずに、広大な土地が余っている…という印象を私は受けた。

今、山口県全体でレノファを応援していこうとしているが、サッカー専用のスタジアムを、オートレース場を潰してそ

こにつくるというのもいいのではと思っている。次に出てくる都市構想の中でも、埴生地区は小さい円になっているが、外にもう少し大きい円にしてほしい。

この10年を見越した上で、オートレース場を残したほうがよかったのか、レノファの計画を立てるなり、経済効果の試算をするなり、試算くらいは基本計画に盛りこんでいただけたらと思う。

【会長】

難しい問題である。膨大な費用もかかる。これは別途検討のほうがよいと思う。一応、御意見として参考にする。

【事務局】

今の御意見の中で基本目標が五つから六つになったところは、分野別でわかりやすいものをつくろうということで分けさせてもらっている。子育て・福祉・医療・健康という一つの大きな分野、福祉関係・健康関係でまとめていこうということ。市民生活・地域づくり・防災関係と分野ごとにまとめて出して、五つ目まではそういうことでやっている。六つ目は行財政運営を進めることで五つの基本目標をクリアしていくということで掲げさせていただいている。また、レノファは地域資源ということで見て、プロサッカーなのでそこに入りこんで何かをするということとはできないが、交流人口を増やし、レノファを資源として活用しながら人口の増加を図っていくということもある。基本的にはその部分だけではなく、横断的に取り組む事業であると考えている。回答にはなっていないかもしれないが、一応そういう考え方を持ってやっている。

【事務局】

子育てに関しては人口減少社会でもあるので、委員さんから施策がないのではとされているが、本市としては施策の拡充を考えている。30年4月には子育て総合支援センターの開設もある。それもやはり子育てについて入れさせていただいている。

もう一点、オートレース場は負債を回収するまでには至っていないのが現状。スタジアム建設といった目も本当はもったほうがいいのかなとも思うが、今のところはオートレース場をどうこうというのはないと御理解いただきたい。

【委員】

今は基本目標の話をしている。それについて非常に違和感がある。基本目標6について、目標というよりは目標達成に向けた方針である。あえてここに入れるまでもない、行政や市役所にとっては常にとらなければならない基本方針である。つまり1から5はゴール。6はプロセスである。なんで一緒にしているのか、非常に違和感がある。なんで違和感があるかという、この中に「市民とともに」というのがある。何となく、上から目線に見えないか。一体感がない。市民より自分たちが上だと、自分たちが市民を見ていると。そういう行政なのか市役所なのか、誰が主体なのかわからないけど、「市民とともに」、「時代を作る」、「自律」という言葉もどういう定義なのかよくわからない。この副題に関してすごく違和感がある。いかがだろうか。

【委員】

自律というのは市民のハーモニーということか。自律の意味が僕もよくわからない。協調、ハーモニーということを使っているのか。自律を目指そうという、この語彙が理解

しにくいと思う。

【事務局】

「市民とともに」というのが上から目線という御指摘についてだが、これは市民が市政に参加いただきやすい市の取組・姿勢を表したものであるということで御理解いただけたらと思う。もう一つ、「自律」の意図だが、これからの時代、大きな経済成長が見込まれない、人口は減少という中で、税収が減っていくということを見据えた上で、持続的・現実的な計画としていく必要がある。そのため、少々厳しいように受け取られる言葉ではあるが、「自律」という言葉を使わせていただいている。

【会長】

これは目標ではなくて、プロセスではないかということも確かにそういうところも感じる。

【委員】

基本目標5まででいいのではと思う。

【事務局】

委員さんのおっしゃることはよくわかる。ただ、今までの総合計画は総花的な感じで、分野別の基本目標を定めていた。ところが、時代の変遷に伴い、少子化や税収減が見込まれる中で、市においても経営感覚をもたないといけないというのが全国的な流れである。当市だけではない。そういったことも含めて、私ども地方都市も経営感覚を持ってやっていきましょう、市民の方にも現状をお話ししながら、御理解いただきながら、一緒に健全なまちをつくりたいということで、そのようにあげているということである。御

理解いただきたい。

【委員】

私は書いてあること自体については問題ないと思う。

【会長】

目標なのかプロセスなのかという部分はあるかと思うが。

【委員】

今までもずっと教育関係の建物がずっと建て直しができていない。医療系に関しては、訪問診療の器具も宇部に借りに行くような状態で小野田にはない。そういうことも全くできていないのに、基本目標を大きく出したなあとと思う。ただそれは、皆が机上の空論にならずに、これが目標である、希望を持っているというので捉えたが、最後の6は、読み進めていくと、「だから税金をとるんだよ」にしか聞こえない。どうにか企業がちょっとでも増えて、個人でもちょっとでも働いたらすごい取るよ、というふうにはしか聞こえないので、この基本目標はいらぬのではないか。財源を確保することを長々と書いているだけではないか。

【事務局】

1から5までを達成するためには、市民と一緒に協力しながらやっていかないといけない。当然税金は義務として納めていただかなければならないが。ここで当然節約もしながら、こういう目標を達成するには行財政の改革も必要だということを含めてここでは書かせてもらっている。この一番下の「計画の実現に向けて」というのが上の五つのものを達成するための中身であろうと思っているので、私どもとしては、税金を取るよということではなくて、行財政

改革を進めながら、節約をしながら、目標を達成していき
たいというふうに考えている。

【会長】

一番下の文章の「市民と行政とがまちづくりの方向性を共有し」とあるが、ここの内容としてはこの文章はそぐわないかもしれない。

【委員】

今、会長が言われた分だが、基本目標6のさらに下、「こうした取組を踏まえ」という文章が入っているが、これは基本目標の中に入れるべきなのかどうか違和感がある。あえて基本目標の中に入れる必要はないと思う。それと、その中に書いてある自立可能な行財政基盤を確立しようとするが、これは今ある財政計画との絡みもあるとは思いますが、何を具体的には言っているのか。例えば、実質公債費比率もだんだん比率が下がっている。財政力指数もかなり下がっている。そういう財政計画になっているが、ここに入れるのは違和感がある。もう一つ、基本目標の前段に、「総合的に施策の推進を図ります」とあるが、具体的にはどうしていくのか。各部の調整、横の連携などをどうしていくか。無駄は省いていく必要があるし、抜けがあってもいけない。そういうところの機構をどうしていくかも非常に問題になってくる。この目標の中では記載する必要はないが、具体的に進めていくときにはその辺を十分議論して抜けがないように考えてほしい。

【事務局】

中身については、この部分を1に置いて、最後のまとめとさせていただきますが、違和感があるという御意見なので、

また内容は検討していきたい。

【委員】

都市基盤の課題に、前々から JR 駅周辺の整備や生活の利便性を高めることが必要だということだが、そういう概念は持っているのか。持っているなら、どうして基本目標には入らないのか。

【事務局】

ここでは都市基盤の全体的なところを出しているので、簡単に、わかりやすい表現をさせていただいて、また、次の都市構造についてもその辺をうたわせていただいているところもある。重要でないから入れていないというわけではなく、全体を見た中で、こういうわかりやすい言葉で対応させていただいたということで御理解をいただきたい。

【会長】

基本目標で文言がかぶっているところは、再度検討いただく。6「自律のまち」は少しわかりにくい。それから基本目標6の下にある文章は、基本目標1の上にある文章と内容が似ていることもある。この二つを一緒にするなどまとめも含め検討をお願いするというにしたい。

【委員】

6のところについて、他のところと大きく違うことに意味があると思う。近隣市との連携について、全部を自分のまちで持とうとして、中途半端に同じようなものをもつのではなく、下関市や宇部市などを意識した中で、それとは異なる山陽小野田市らしい特徴あるものを作っていかなければならないのではないかなと思う。これは余分なお金を使

わないという意味も含めて。また、合併後、明らかに情報が伝わらなくなっている。市井のこともそうだし、求人などの広告など、働く場は結構あるのに伝わっていない。近隣との状態を把握し、近隣市にあるものを作るのではなく、ないものを充実させていく必要がある。さっきオートレース場の話が出たが、今ボートや競馬や競輪なんかは券が売れ始めているのに、オートだけ置いていかれているらしい。ボートなんかは、すでに自分のところに投資をせずに、場外発売所などと互いに連携している。簡単に言えばボートの借金はボートに払ってもらおうということ。今あるものを利用して、充実させて。私は、以前と比べてこの6の部分が一番共感できた。さっきのように6の部分はプロセスだといわれたらああそうかと思ったが、やはりこの6の存在をきちんと、前回までとは違うものとして置いてはどうか。

【委員】

行政運営の上で、財産基盤をある程度確立させることは必要。ただ、それぞれの地区の住民は新しい基本構想ができて実施計画ができたとき、今までの分は新設されているのに、今後は同じような条件であっても新設ではなく、改修という形になると地域から不平・不満が出るのではと思う。そこらへんも考えての6項目なのか。財政状況は5年先、10年先と明らかにわかっている。第二次総合計画が出た段階で、そこだけやりかえらなったら、住民は地域格差を感じるのではないか。そういう覚悟を持ってやろうとしているのか。

【事務局】

これは「やりかえる」というスタンスではなく、当然第一

次を引き継いでおり、分野別にわかりやすいように再編している。新たにここは手をつけなくなるというような内容ではない。今の施設の老朽化の話だが、40年50年たっているものもあり、計画を立てながら今後進めていかなければならない。統合するものは統合し、長寿命化する必要があるものは長寿命化していくので、今、第一次と違うのは、どこの施設も長寿命化・統廃合を考えていく時期にきているということで、こういう文言を入れさせていただいている。

【委員】

具体的に言うと、いま地域活動では公民館が拠点となっている。その中で耐震構造になっていないのが出合・高千帆・小野田。これが残っている。その実態は御存じか。

【事務局】

公民館については今言われたものがあるし、2階建ての建物で耐震化等できていないのかどうかを判断していくことになる。公民館以外にも、市の施設で耐震化を行わなければならないものもあるし、今後検討していかなければならないものについては把握している。

【会長】

皆さんからの御指摘どおりのところもあるし、この辺りはもう一度たたき直していただいたほうがいいかもしれない。

【委員】

だいたい、歳出抑制とかごちゃごちゃ書いてあるが、厚狭と小野田が合併したときに市民病院であった山陽中央病院

さんを格安で個人に払い下げたなんてことがある。市民の財産を。森友学園みたいに。そういうことをやっていながら、ちまちまちま歳出抑制とか書いてあるのは納得がいかない。大きい財産を捨てていながら。そのうちオートレース場も捨てるのではないか。

【事務局】

中央病院については適正価格で譲渡している。やはり今後、人口減少、生産年齢人口が減るのはどこの市町村も同じ。山陽小野田市の公共施設を今のままにした場合、試算していくと維持費が約1.9倍かかっていく。それは困難なので、いろんな施策をしながら、最適化を図っていく。当然住民の皆さまへの説明をしていくということも計画に入れこんでいきたい。ただ、会長にも言われたことがあるので、持ち帰って再度検討していきたい。

【会長】

山陽オートについては今この場で、というのはリスクが大きすぎる問題。公営ギャンブルは落ち目にある中で必死に頑張っているところでもあるので、逆にそれを応援していきたいとも思う。

【委員】

全体的に思ったが、課題の整理と基本目標はタイアップしていると思う。そのままの文言を、語尾を変えてやっているのかなと感じる。読みながら、いつ活力と笑顔が出てくるのかなと思っていた。少子化、次代を担う子どもたちのためにまちを作っていないといけないと思うが、基本目標1の中で、「希望を持ち」というのが何に希望をもつのが不安でしようがない。全体的にみて、これって今までや

ってなかったの？という点が疑問に思った。唯一特徴があるのが産業・観光で、山口東京理科大学の名前が出てきて、そこで新産業や人材の育成とあって可能性が出てきた。明るいなというのは読み取れた。だからといって、山陽オートとか固有名詞使ったほうがいいんじゃないの、とは違うのだが、どこまで読んでいけばスマイルが出てくるのかなと思っている。課題とタイアップしているなら、基本目標6もあると思うが、ただ単に語尾を変えているだけなのかなと感じた。裏にきちんと具体性を持ってつくっているのかなと、行政の覚悟が見えることが必要なのではないかと思う。ひと言ずつ読んでいると、当たり前で今までやってこなかったのかと思う。先ほどの産業・観光のところでも、「産業・観光」という題になっているにもかかわらず、基本目標の中に「観光」という文字が一つもない。観光は目標の中に入らないのかなと。

【事務局】

基本目標1について、「希望」の趣旨だが、福祉部門の担当と話して作成した。この希望を持つ「希望」は、年齢や障害の有無にかかわらず、住み慣れた場所で希望を持って生きていける、そういう社会を作り上げたいという福祉部署の職員の思いが入っているということで御理解いただければと思う。

【委員】

それを全市民に説明されるのか。そこが必要ではないか。

【会長】

今の事務局の話は「希望」といっても非常に複雑なので、それを全部並べるのはこの場では難しいということでもいい

か。

【委員】

観光についてはどうか。

【事務局】

観光の内容は、豊かな自然・文化資源などを活用した交流人口の増加というところで、観光の意味があるという認識を持って文章を書いている。

【委員】

基本目標 1 から 5 まで全て記載されているが、1 から 5 まで全て文節が二つある。「～を目指します」という形でここでは二つの目標が表現されている。それぞれの中で二つの目標があるように印象を受けるが、これでいいのか。「また」という表現をやり変えて一つの文章表現にすべきだと思うが、どうだろうか。

【事務局】

それぞれの基本目標の分野が幅広い内容が含まれている。推敲の際に、一つの文章でということも検討したが、ただ、読んでいくと、一つの文節だと長くて読みづらくなるため、おおむね二つで分けさせてもらっている。

【委員】

長くなるからこれにしたということだが、これでいうと A があって B があると理解してしまう。だから、A の節のところの最終文言と B の頭の文言を整理して一つに続けられれば、もっと簡略にそれぞれ表現できるのではないかと思う。長くなるからということだが、「また」の後の文を全部のけ

でも理解できると思う。

【事務局】

基本目標になると非常に範囲が広く、一つ目の段落では防災や防犯といった安心安全について。二つ目の段落では美しい自然、環境についてのもの。三つ目は地域づくりということで地域活動の活性化とそれぞれある。基本目標の中にある内容を表現しようとする、これだけの内容が含まれており、分野ごとにこういった表現をとっている。

【委員】

固執するわけではないが、この基本目標資料5の詳細が、将来の都市構想、資料6につながってくるのだと思うのだが、それはそれで理解できるので、このままの表現であると、Aもうたわれ、Bもうたわれ、と受け取るほうの不安もあるのではと思うので、多くを羅列しないほうがいいのではと思う。皆さんがこれでいいとおっしゃるならそれで構わない。

【委員】

別件だが、第二次を作られるときに、皆さん第一次の反省や課題を出されていると思うが、その課題解消のために、このたびの第二次総合計画には全て生かされているのか。

【事務局】

第一次の計画のできていない点は以前資料を出している。基本目標では細かい内容は書かないが、それを踏まえて基本計画を立てていくのは間違いない。

【委員】

うちの大学だけ固有名詞を入れていただいて感謝している。ただ、実はこれがこの先の6年間もあると困る。そもそも大学というのはむしろ、目標5の教育、目標2の地域づくりに先にくるのではと思う。私は3年前からアクションプランをつくっており、300項目を教職員に出してもらっている。それを毎月フォローしている。その内容は、私が人材育成と地域・社会貢献と基盤要素に分けているのだが、おそらく300項目をそれぞれ当てはめ直せば、この1番から5番までかなりの数が当てはまる。心外ではあるが、それを言ったら、全て完璧を目指さなければならなくなるかなと思って我慢するが。目標というのは、私が今自分の例を出して申し上げたように、多少不完全なことがあっても実行していくなかで形にすべきじゃないかなと思う。

【委員】

基本目標6について、1から5までを実現するための目標として捉えればあってもいいのではと思う。もし変更するのであれば、6について、目標を実現するためには前回、効率や生産性の視点が出たと思う。実現を目指して何をやる必要があるかという、今までどおりのありきたりでは同じようなことになる。総花的な結果に終わってしまう。何か競う展開、斬新な発想がいる。前例にしばられず斬新な発想ができるという意味では、市民に求めるというのはあると思う。だから、基本目標の表現の中に、計画の実現に向けて行政として覚悟をもった内容を一つ入れてほしい。

【会長】

今まで出た意見を踏まえ、改良できるものはしていただい

たらと思う。

【委員】

行政として、山陽小野田市はこうしていこうと1から5では夢と希望をうたっているが、6は言い訳だと思ってしまう。6は、お金などの問題もあるし実現は不可能、前もってバリアを張られたような、夢も希望もないような感じにみえる。

【事務局】

夢と希望をもったまちづくりを進めるためには公共施設の維持管理・統廃合は進めていかないといけない。決してこれで否定するつもりはない。あくまでも自律可能なまちづくりを進めていくためには必要なことであるという認識の下に作成しているということを御理解いただきたい。ただ、今回皆様からいただいた貴重な御意見は、持ち帰って検討させていただこうと思う。

【委員】

小野田で胸を張って言えるのは、私は山口東京理科大学があるということくらい。子育てしていても、小さいうちからみんな県外に出さなきゃいけないくらいの教育レベル。だから山口東京理科大推しで。

【委員】

私は、自分の大学の目標としては、やりたいことをやるのが一番ということをしている。工学だったらやはり産業に結びつかないといけない、教育そのものだったら5番だし、地域の理科教育もしているからそれは2番になる。だからちょっとどれかというのは。地域のみなさんが幸せに

なるというのは、やはりお金と健康だと思う。教育はツール。それをやることによって何かを目指す。それは、私は健康と富があって、心の幸せが得られるコンテンツ、それで、こじつけだが、私は薬学をする人間として、やはり一つは富を得ること、基本目標4についても一応ミッションだと思っている。だから、それだけをここに掲げていただいたことに関してはちょっとわだかまりがあるが、全然だめだということではない。

(4) 将来の都市構造について

【会長】

将来の都市構造について御意見を伺いたい。

【委員】

工業集積拠点は大変すばらしいことが書いてある。また山口東京理科大学も進出してきている。企業会にも声をかけて何とか地元での採用を増やしていただきたい。例えば行政と商工会議所の皆様、山口東京理科大の皆様と一緒にあって、企業訪問をする。また、山口東京理科大には来年から薬学部もでき、これは、若い人に定着してもらえる大きな要素だと思う。力強くその辺りの連携を取りながら、将来の基盤づくりということで進めていただきたい。もう一つ、環境問題の対策では環境保全協定が締結されて、協議され、周辺住民にも意思確認をしてきている。実はその中で、住民への意思確認がされないまま新工場を増設している企業が多々あるように思われる。行政として責任を持ってその確認をお願いしたい。企業とはそういう信頼関係がないと様々な構想や計画が頓挫してしまう。住民が安心して暮らせるようにお願いしたい。

【事務局】

担当に伝えておく。

【委員】

追加資料の差し替えがあるが、これは総合計画に最終的には載せていくのか。

【事務局】

載せていくつもりだ。

【委員】

農地のところだが、旧山陽町集落営農法人が頑張り、かなりの農地をつくっている。耕作地が開発されていくと思う。埴生の山陽本線の北側、福田地区でも集落営農法人も頑張っている。その辺も御配慮いただけたらと思う。

【事務局】

基本的には都市構造は土地利用構想というのがあって、それに基づいて、都市計画マスタープランを作成している。当然それは第一次を継続していくものなので、この第二次についてもそれを踏まえた上で考えていかなければならない。今、御意見をいただいたので、都市計画も含めて、また協議をしていきたい。

【委員】

白いところはどういう意味なのか。ゾーン分けしたときに、市のサービスの仕方、例えば、ここは山林ゾーンだからイノシシが出てもしょうがないよ、そういう線引きになるのかなと思って発言した。もう一つ、工業集積拠点は海のほ

うまで広がっているが、これからまた海を埋め立てて工業団地を広げるのかなと思ったのだが。

【事務局】

工業集積については、今後埋め立てでできるということではなく、海岸で海もかかわるため入れている。白い部分は確認する。

【委員】

この中で新たなものは何かあるのか。

【事務局】

基本的には第一次総合計画を継承しており、都市計画マスタープランを踏まえている。駅前を商業集積拠点にするなどの変更はしていくことになるかと思う。大塚工業団地の団地名を記入する等の違いはある。第一次は大ざっぱだったので少し見にくいかもしれない。

【委員】

厚狭川が真ん中であって、厚陽地区の辺りに地域サービス拠点がある。ここは公民館だと思うが、今までも地域拠点になっていたのか。

【事務局】

厚陽出張所を併設しているためこのように記載している。

【委員】

公共施設についてバスの本数も減っている中、どう強化していくのか。

【会長】

それは個別に検討していく事案かと思うが。

【委員】

何でも書けばいいというものではない。理想をまんべんなく網羅して書いている。みんな納得しているのか。

【事務局】

基本的には連携軸は、広域に対して幅広く活動するためのもので、そういう軸としてバスや鉄道などの手段があるということここではうたっている。当然九州方面や広島方面に広域の経済、文化、観光などの交流を図るために道路やバス、鉄道を利用して広域で考えていくということここでもうたっている。バスがどうなのかという中身ではなく、広域で進めていくためのものかと考えている。

4 その他

【委員】

答申書の中身を審議する時間はあるのか。

【事務局】

ある。

【委員】

次回に大体まとまっているのだから、その時に意見があればつけたらいいのでは。

【会長】

これだけたくさん意見が出たので、盛りこみにくいものも

あるかもしれない。

答申書は、15分程度で市長に交付することになるが、会長の一任とさせていただくか。皆さんにも集まって出てもらうか。その場合はもう一度会合を開かなければならなくなるが。

【委員】

今後の日程について説明をお願いしたい。

【事務局】

次回は今回の修正等も含めての会議になる。7回目は答申になる。

【委員】

答申の内容については、やはり答申の前に委員が目を通す必要があるのではないか。

【会長】

次回しっかりまとめたものを確認していただくということでお願いしたい。

【委員】

異議なし。

5 閉会